

令和6年度 事務点検・評価報告書

目 次

◆ 教育委員会の点検・評価制度の概要	1
◆ 評 価 委 員 の 点 検 ・ 評 価	2
◆ 教育委員会の活動状況及び活動概要	8

【 学 校 教 育 課 】

◇ 道 徳 心 の 高 揚	13
◇ 豊 か な 心 の 育 成	14
◇ 確 かな 学 力 の 育 成	15
◇ 健 や かな 体 の 育 成	16
◇ 生 徒 指 導 体 制 の 確 立	17
◇ 安 全 教 育 の 推 進	19
◇ 坂 町 学 び の ア ン ケ ー ト 結 果	20

【 生 涯 学 習 課 】

○ 地 域 文 化 の 保 存 、 継 承	22
○ 生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実	23
○ 生 涯 ス ポ ー ツ の 推 進	25
○ ウ オ ー キ ン グ の 推 進	26
○ 生 涯 学 習 施 設 の 有 効 活 用	27

教育委員会の点検・評価制度の概要

1 点検評価の趣旨

平成 20 年 4 月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務付けられた。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 対象年度

令和 6 年度

3 点検・評価の対象事業

点検・評価の対象は、坂町長期総合計画並びに教育行政方針に準ずる各事業の経営目標を定め、各事業の取組等について点検・評価を行う。

4 点検評価の方法

点検評価は、各事業で評価指標等を設定し、次の評価基準に従って評価する。

区分	内 容
A	目標値：＋10 ポイント以上
B	目標値：＋10 ポイント未満・－10 ポイントを超える
C	目標値：－10 ポイント以下・－20 ポイントを超える
D	目標値：－20 ポイント以下

※ただし、事業によっては、別に評価基準を定める。

評価委員の点検・評価

はじめに

本評価委員は、坂町教育委員会に対して、坂町教育委員会が作成した「令和 6 年度の教育委員会事務点検・評価報告書」について、ヒアリングを実施した。ヒアリングでは、まず、「点検評価の方法」についての説明を受けた。次に、「令和 6 年度 点検評価票」11 項目について、1 項目ずつ、詳細な説明を受けた。そして、各点検評価票の中の「成果と課題・改善策」について意見交換を行った。

意見交換にあたっては、坂町の取り組む重要施策に基づいた取組になっているかを意識し、主に次の 3 つの視点を持って行った。

- ① 子どもたち一人一人の能力や個性を伸ばそうとする取組になっているか。
- ② 子どもたちがこれからの時代を生き抜くための力をつける取組になっているか。
- ③ 町民一人一人の思いや願いを大切にしたい取組になっているか。

ヒアリングを通して、本評価委員は、「令和 6 年度 事務点検・評価報告書」は、評価指標区分の「B 評価は妥当である：改善策は有効と考えられる。」とした。

以下、各項目について具体的に述べることとする。

評価指標

区分	評価の妥当性 : 改善策の有効性
A	評価は極めて妥当である。 : 改善策は極めて有効と考えられる。
B	評価は妥当である。 : 改善策は有効と考えられる。
C	評価は妥当とはいえない。 : 改善策は有効と考えられない。
D	評価は全く妥当とはいえない。 : 改善策は全く有効と考えられない。

(1) 「道徳心の高揚：『礼節』を基本とした教育の推進」について

坂町では、長年にわたり、『礼節』を基本とした教育の推進をしてきている。そのため、小中学生とも上学年のように行動したいという思いが常にある。その思いが行動として表出し、身についている。肯定的な回答が中学生は 9 割を大きく越えているのは大いに評価できる。小学生の肯定的な回答を上げるためには、なぜ、心のこもった挨拶をすることが大切なのか、なぜ、感謝の気持ちを持ち黙って掃除をすることが大切なのかを考えさせ、自発的な行動へと意識化させることが大事である。粘り強い取組を望む。

坂町道徳教育推進協議会では、道徳的な課題を児童生徒一人一人が自分自身の問題と捉え、「考え、議論する道徳」への授業改善を図っている。その結果、「道徳」に関する[質問項目 (2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えたりしている]では肯定的な回答が中学生は 97% と非常に高い。

これは、道徳的実践意欲が身についていることを表しており、いじめを許さない、人の

気持ちがわかる人間に近づくように一人一人が自らなろうとしていることと捉えることができる。

また、道徳参観日や道徳に係る公開授業を行い、子どもたちが道徳の時間で考え、思いを出し合い、日々の行動に繋げていこうとする姿勢を、保護者や地域の方に見てもらうことはとても有効である。

これらの取組を「広報さか」「学校通信」等で町民、保護者へ伝え、『礼節』を基本とした教育を進めていることへの共感を得ることをさらに進めてほしい。

(2)「豊かな心の育成：郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進」について

中学生の地域の行事への参加及び地域や社会のために何かをしようとする思いは、高い。これは、地域に受け皿があり、学校と一体となって子どもたちを育てようとする風土があるからである。さらに高めるために、「坂町の教育を考える会」の方針に基づき、小中学校の学校運営協議会（コミュニティスクール）を活用した地域とのつながりの進化・発展を進めることが大切である。

現代社会は、急速にグローバル化が進んでいる。それにより様々な言語や文化を持つ人々が国際社会を行き交うようになってきている。子どもたちがこのグローバル社会を生き抜くために必要なスキルとして大事なものは、世界の公用語としての英語力、国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力である。

その能力を高めるためには、すべての教職員の英語力・実践的指導力が不可欠であり、外国語推進リーダーを核に進めることが重要であると考えます。

また、児童生徒自身に、英語力、コミュニケーション能力が身についてきていることを実感させ、さらなる向上意欲を持たせることも必要である。「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業等で育成することが大事である。加えて、英語検定（実用英語技能）の積極的な受検等の取組を進めてみてはどうか。

(3)「確かな学力の育成：基礎的・基本的な知識・技能の定着」について

「全国学力・学習状況調査」において全国平均値を小中とも上回ることができているのは教員の加配配置や積極的な授業改善により、個に応じたきめ細かな指導に取り組んできた成果である。さらに成果を上げるためには、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができている児童生徒に対して、個別の手だてを明確にして取り組むことが必要である。

加えて、ICTを積極的に活用し、子どもたち一人一人が主体的に学ぶ取組を推進することも必要である。

また、取組には、指導者の時間の確保が不可欠であり、人員加配、校務支援システムの積極的な活用が求められる。

特別支援学級在籍の児童生徒が、将来、生きていく力を身につけるために必要な教育を個別の教育支援計画に沿って丁寧かつ確実に実践することが大切である。

(4)「健やかな体の育成：体力・運動能力の向上」について

「小学校教科担任制推進加配（体育科）」を中心に体力向上及び体育科授業等の工夫・改善を図ることにより、新体力テストの全国平均値を校種別、性別とも超えていることは評価できる。

引き続き、学年の発達段階、そして、一人一人の課題克服のための指導に努めることが大切である。その手だてとして、1人1台端末の効果的な活用方法を追求したい。一人一人に自己の記録の変容を意識させ、自己目標を設定させること。そして、そのための方法を自己決定させて取り組ませたい。このことは、意欲向上につながり、達成感を持たせることになる。

健やかな体をつくるためには、食育も大切である。栄養バランスの取れた食事や食の楽しみ方などについて、学校給食と関連付けた取組の検討を望む。

(5)「生徒指導体制の確立：積極的生徒指導の充実」について

いじめ問題については、「チーム学校」としてSC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）と連携した教育相談体制の確立により、いじめの早期発見、対応ができており、子どもたちの多くは、安心して楽しい学校生活を送ることができている。

不登校の児童生徒数について、中学生 100 人あたりでは、前年度に比べて 3.83 人も少なくなっているが、全国平均よりも 1.96 人多い。また、小学生においては 0.7 人増えている。

令和 7 年度も令和 6 年度に引き続き、不登校 SSR 推進校（小中各 1 校）を配置し、この 2 校を中心に坂町全小中学校において、不登校の未然防止及び不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を図ることが求められる。

不登校児童生徒に対しては、丁寧な実態把握を行い、一人一人に応じた支援を進めていくことが重要である。また、個々の状況に応じて成長できる場となるよう SC や SSW、他機関と連携しながら同じ方向性をもって取り組むことが大切である。

「子どもと向き合う時間が確保できている」と感じている教員の割合が 96% と高いことはおおいに評価できる。このことが、坂町の教職員が児童生徒一人一人に丁寧にかかわり、いじめの早期発見や問題行動に早期対応できていることにつながっている。この高さを維持してほしい。

そのためには、教員加配、スクールサポートスタッフ等の配置が今後も必要である。

(6)「安全教育の推進：防災教育の充実」について

坂町学びのアンケート結果から、「平成 30 年豪雨災害の経験や教訓」を生かした防災教育が継続して進められていることがわかる。

特に地域の防災士を招聘してのハザードマップ作成をしたり、防災に係る発表をしたり

することにより、児童生徒一人一人が自分事として防災意識を高めることができているのは大いに評価できる。

今後も過去の災害を風化させることなく、地域との連携を図り、「待つな！迷うな！逃げろ！」を合言葉に町内小中学校において、差がない防災教育の推進を望む。

(7)「地域文化の保存、継承：坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成」について

実施したイベントへの肯定的な回答は95%と過去3年間の実績よりも6ポイント以上増となり、非常に高い。これは、イベント参加者からの要望を含めた感想を検証分析し、企画の充実を図った成果と考えられる。

令和7年度は、令和6年度に作成した史跡案内看板の動画を町ホームページや公式 SNS 等で公開したり、各案内看板に QR コードを設置したりするなど、新たな取組を検討するとある。

検討したことを実現し、坂町民の一人でも多くの人が、坂町の歴史や文化に対する理解と関心を持つことにつなげてほしい。それが、地域への愛着を持ち、継承していくことへとつながることになる。

(8)「生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実：図書館サービスの向上」について

図書館内に個別スペースを設置したことが来館者数につながっていることは評価できる。また、図書館貸出数の増加のために、来館するのが困難な方に対しては、坂町のホームページから本を予約し、町民センターやシモハナ Hall、各ふれあいセンターで受取り・返却もできるようになっていることも評価できる。

令和7年度に図書館貸出数の増加のための改善策としてあげている町民の年代別のニーズを掴むためのアンケートを実施したり、図書館サービスや様々なイベントや取組についての情報発信をしたりすることに期待する。

図書館司書が町内小中学校を巡回訪問するのが月に1回、それも1校あたり数時間というのは、非常に少ない。

子どもたちが読書で得られる効果は、新たな知識の獲得、論理的思考力の深化、多様な価値観への接触等多々ある。ぜひとも、学校司書を各校に配置できるよう、要望する。

加えて、地域ボランティアや保護者等の協力を得て、読み聞かせ、本の修繕、本の整理等をしてもらうことも考えると良い。

(9)「生涯スポーツの推進：生涯スポーツ社会の実現」について

町民誰もが生涯においてスポーツを楽しめるように様々な教室、大会を実施し、満足度も100%近くとなっていることは、大変良い。

これは、「広報さか」やチラシ、ホームページ、公式 LINE 等で多角的に情報発信をし、綿密な計画をもとに具現化したことにある。また、スポーツ推進委員の力も大きいことに

ある。

令和7年度は、令和6年度で障害者スポーツ研修会を通して明らかになった課題を踏まえ、障害者一人一人に寄り添った支援の在り方を明確にし、障害者一人一人が楽しめるスポーツ教室の開催を望む。

また、高齢者やさまざまな障害を持つ人が楽しめる軽スポーツの普及活動の充実も望む。加えて、各種大会・教室会場への移動支援も望む。

(10)「ウォーキングの推進：『坂町悠々健康ウォーキング大会』の充実」について

5年ぶりに開催した昨年度の「坂町悠々健康ウォーキング大会」参加者 674 人から令和6年度は 732 人と 1 割増となったが、目標値 1200 人の 6 割にも届いていない。

これを達成するためには、相当な努力が必要である。改善策としてあげている早期の開催周知、広報活動の強化、ネットによる申し込み等を確実に進めてほしい。

町外からの参加者増を図るための方策として、インターネットへの掲載時に大会の良さを動画ですぐに見られようにしたり、エントリー手数料を安くしたりすることはできないかなどを検討してはどうか。

町民の高齢者や障害を持つ人への配慮として、これまでしてきた当日の支援に加えて、自宅からウォーキング会場までの移動手段の提供や参加費を少しでも減額することを検討してはどうか。

(11)「生涯学習施設の有効活用：町民交流センターの活用促進」について

地域に密着したホール運営として、10 周年記念公演等、多彩な事業を開催した結果、来場者の満足度は 9 割を超える高さとなったことは評価できる。

この高さは、町民一人一人の思いや願いを把握することに努め、そして、受け入れていることにあると思う。

また、高齢者や障害を持つ人への手厚い支援や配慮がなされていることにもあると思う。

令和7年度も引き続き高い満足度を得るために、町民の思いや願いを受けとめた事業を開催することを望む。そして、高齢者や障害を持つ人への配慮を望む。

おわりに

以上、各項目に即して点検評価の結果に基づいて意見を述べた。

その上で全体を通して言えることは、まず「坂町教育委員会事務点検・評価」は、各経営目標の達成に向けて 1 年間取り組んだ結果として、その成果と課題を明確にあげていることである。そして、課題を解消するための改善策として、一つ一つの課題に対して具体的で実行可能なことをあげていることが良い。また、評価が C 以下の指標（不登校児童生徒の割合、坂町悠々健康、ウォーキング大会、参加人数）について、改善策を確実に遂行していく必要がある。

次に、はじめにあげた3つの視点から述べる。

視点① 子どもたち一人一人の能力や個性を伸ばそうとする取組になっているか。

目標値に対しての肯定的評価の割合のみに注目することなく、少数の否定的評価を大事にしている。そして、否定的評価をした理由、背景を追求し、改善策をあげている。

例えば、学力向上に向けて児童一人一人の課題を分析し、個に応じたきめ細かい指導を行っていることである。

視点② 子どもたちがこれからの時代を生き抜くための力をつける取組になっているか。

坂町の子どもたちに時と場所、場に応じた適切な挨拶や言葉遣いができる「礼儀」と、自分自身の立場をわきまえ、よく考えて行動し、生活することができる「節度」を身につけさせることを全ての教育活動を通して取り組んでいる。

そして、坂町で育ったことに誇りをもち、ますますグローバル化していくこれからの社会を生き抜くために必要な英語力やコミュニケーション能力を身につけ、能動的な態度を育成しようとしている。

視点③ 町民一人一人の思いや願いを大切にしたい取組になっているか。

生涯学習課関係の各種事業後のアンケートでは、どれもとても高い割合の肯定的評価を得ている。これは、坂町民のニーズに応えたものであることを示している。

これからも、高齢者や障害を持つ人へのバリアフリーを念頭においた取組や手厚い支援を大切に進める必要がある。

坂町教育委員会は、各項目で示した改善策を計画的に実行し、これからの社会を生きていく子どもたち一人一人のよりよい成長を図ること、坂町民一人一人の願いを受け止め、一人一人を大切にする町、一人一人が活動できる町づくりに尽力してほしい。

【評価委員】

元小屋浦小学校長 坂田 眞澄

教育委員会の活動状況及び活動概要

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会委員

教育委員は、町長が議会の同意を得て任命した教育長及び4名の委員により構成する。
令和7年3月31日現在の教育委員は、次のとおりである。

職 名	氏 名	性別	任 期
教育長	枝 廣 泰 知	男	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日
教育長職務代行者	松 村 英 勝	男	令和5年12月17日 ～ 令和7年3月31日
委 員	埤 本 友 造	男	令和6年12月5日 ～ 令和10年12月4日
委 員	平 沖 純 子	女	令和4年4月1日 ～ 令和8年3月31日
委 員	佐 野 友 美 子	女	令和5年4月1日 ～ 令和9年3月31日

(2) 教育委員会会議の開催状況 13回（定例会12回、臨時会1回）

(3) 教育委員会会議での議案の審議状況 議決の状況（令和6年度）36件

番号	議案名	可決日	備 考
13	坂町立小中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部を改正する規則について	4月23日	規則第2号
14	坂町社会教育委員の委嘱について	4月23日	
15	令和6年度教職員研修の方針について	4月23日	
16	教科用図書の採択基本方針について	5月21日	
17	坂町社会教育委員の委嘱について	5月21日	
18	坂町留守家庭児童会設置条例施行規則の一部改正について	5月21日	規則第3号
19	坂町留守家庭児童会実施要綱の一部改正について	5月21日	訓令第7号
20	令和5年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について	6月18日	
21	坂町教育支援委員会規則の一部改正について	6月18日	規則第4号
22	令和6年度坂町教育委員会経営計画・主要施策について	7月22日	
23	令和7年度使用中学校用教科用図書採択について	8月20日	
24	令和7年度使用特別支援学級用教科用図書採択について	8月20日	
25	坂町留守家庭児童会保護者負担金免除要綱の一部改正について	8月20日	訓令第8号
26	坂町留守家庭児童会設置条例施行規則の一部改正について	10月22日	規則第5号
27	坂町立小中学校における医療的ケア実施要綱の制定について	11月19日	訓令第9号
28	坂町立小中学校医療的ケア看護職員設置要綱の制定について	11月19日	訓令第10号
29	通学区域に関する指定学校の変更がある児童生徒について	12月17日	
30	坂町留守家庭児童会設置条例施行規則の一部改正について	12月17日	規則第6号
31	坂町留守家庭児童会保護者負担金免除要綱の一部改正について	12月17日	訓令第11号
1	通学区域に関する指定学校の変更がある児童生徒について	1月21日	
2	令和7年度坂町教育行政方針について	2月4日	
3	坂町立小中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部改正について	2月4日	規則第1号

4	坂町立学校施設使用に関する規則の一部改正について	2月4日	規則第2号
5	坂町文化財保護条例施行規則の一部改正について	2月4日	規則第3号
6	坂町B & G海洋センター条例施行規則の一部改正について	2月4日	規則第4号
7	令和7年度小中学校県費負担教職員人事に係る内申について	3月7日	
8	坂町立図書館管理運営規則の一部改正について	3月7日	規則第5号
9	教育長職務代理者の指名について	3月7日	
10	公立学校情報機器整備事業に係る各種計画について	3月7日	
11	坂町留守家庭児童会設置条例施行規則の一部改正について	3月7日	規則第6号
12	坂町留守家庭児童会実施要綱の一部改正について	3月7日	訓令第1号
13	坂町非常勤講師設置要綱の一部改正について	3月18日	訓令第2号
14	坂町スクールカウンセラー設置要綱の一部改正について	3月18日	訓令第3号
15	坂町スクールソーシャルワーカー設置要綱の一部改正について	3月18日	訓令第4号
16	坂町中学校部活動指導員設置要綱の一部改正について	3月18日	訓令第5号
17	坂町社会教育委員の委嘱について	3月18日	

(4) 議案以外の報告・協議状況

月 日	報告・協議内容
4 月 23 日	○令和6年度坂町の教育行政について ○令和6年度第1回広島県市町教育長会議（4/15）について ○坂町教育委員会事務局事務分掌について ○坂町立学校における働き方改革の取組について
5 月 21 日	○全国町村教育長会第66回定期総会・研究大会（5/14～5/15）について ○令和6年度第1回西部教育事務所管内教育長、部・課長等会議（5/16）について ○令和5年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について ○令和6年5月臨時議会議決事項について ○令和6年6月議会提案見込事項について
6 月 18 日	○令和6年度広島県市町教育委員会連合会定期総会（5/30）について ○令和6年度第67回広島県町教育長会総会（5/31）について ○令和6年5月30日付け「緊急メッセージ」及び不祥事根絶に向けた取組の徹底について ○令和6年度坂町教育委員会経営計画・主要施策について ○令和6年6月議会定例会等について
7 月 22 日	○西部教育事務所による学校訪問（7/9）について ○「坂町防災の日」（7/6）について ○坂町立小学校の通学区域について ○令和6年度広島県女性教育委員グループ総会・第1回研修会（7/5）について ○令和6年7月議会臨時会等（7/1）について ○令和6年7月議会全員協議会（7/5）について
8 月 20 日	○坂町の教育を考える会（7/22）について ○令和6年9月議会提案見込事項について ○令和6年度全国学力・学習状況調査について
9 月 18 日	○令和6年度中国五県町村教育長研究大会（8/22～23）について ○令和6年9月議会定例会について ○地域学校協働活動の一体的推進に関する先進地視察（8/22）について
10 月 22 日	○令和6年度広島県町教育長会研修会（9/27）について ○令和6年10月議会全員協議会（10/4）について ○令和6年度経営計画・主要施策の中間報告について ○坂町教育委員会視察研修・市町村教育委員会研究協議会（9/12～13）について
11 月 19 日	○令和6年度市町教育委員会教育長ミーティング（10/21）について ○令和6年度教職員先進地視察研修（11/7～8）について ○市町村教育委員会教育委員研修会（10/30）について ○令和6年度広島県女性教育委員グループ第2回研修会（11/11）について ○令和6年12月坂町議会定例会提案見込事項について ○通学区域に関する指定学校の変更がある児童生徒について
12 月 17 日	○令和6年度第2回西部教育事務所管内教育長・部・課長等会議（11/15）について ○坂町留守家庭児童会設置条例の一部改正について ○令和7年度坂町教育行政方針の項目について ○令和6年12月議会定例会について ○坂町教育委員会規則における押印省略要件の緩和について
1 月 21 日	○令和7年坂町成人式（1/12）について ○第2回坂町の教育を考える会（12/26）について ○令和7年度坂町教育行政方針について
2 月 4 日	○令和6年度第2回広島県市町教育長会議（1/23）について
3 月 7 日	○最近の教育の動向について ○令和7年3月議会全員協議会（2/28）について
3 月 18 日	○ふるさと資料館整備事業について ○令和7年3月議会定例会及び予算審査特別委員会について

2 教育長・教育委員の活動概要

(1) 各種会議への出席

会 議 名	出席者	実施月日	開催地	備考
令和6年度第1回広島県市町教育長会議	教 育 長	4 月 15 日	広島市	
安芸郡教育長会議	教 育 長	4 月 25 日	海田町	
全国町村教育長会第66回定期総会並びに研究大会	教 育 長	5 月 14 日 5 月 15 日	東京都	
令和6年度第1回広島県西部教育事務所管内教育長、部・課長等会議	教 育 長	5 月 16 日	広島市	
令和6年度広島県市町教育委員会連合会定期総会	教 育 長	5 月 30 日	広島市	
広島県教育長会議及び令和6年度第67回広島県町教育長会総会等	教 育 長	5 月 31 日	府中町	
令和6年度広島県女性教育委員グループ総会及び第1回研修会	佐野委員	7 月 5 日	広島市	
令和6年度広島県町教育長会（web）	教 育 長	7 月 26 日	坂 町	
令和6年度中国五県町村教育長会研究大会	教 育 長	8 月 22 日 8 月 23 日	岡山県	
令和6年度坂町教育委員会視察研修・令和6年度市町村教育委員会研究協議会	教 育 長 全 委 員	9 月 12 日 9 月 13 日	大阪府	
坂町議会建設文教委員会との情報交換会	教 育 長 全 委 員	9 月 18 日	坂 町	
広島県町教育長会研修会	教 育 長	9 月 27 日	熊野町	
令和6年度市町教育委員会教育長ミーティング	教 育 長	10 月 21 日	坂 町	
令和6年度広島県市町教育委員会教育委員研修会	教 育 長 全 委 員	10 月 30 日	広島市	
令和6年度教職員先進地視察研修	教 育 長	11 月 7 日 11 月 8 日	京都府	
令和6年度広島県女性教育委員グループ第2回研修会	佐野委員	11 月 11 日	竹原市	
令和6年度第2回広島県西部教育事務所管内教育長、部・課長等会議	教 育 長	11 月 15 日	広島市	
令和6年度第2回広島県市町教育長会議	教 育 長	1 月 23 日	広島市	
安芸郡教育長会議	教 育 長	1 月 27 日	海田町	

(2) 教育委員の学校等訪問

訪問日	訪問先	内 容
6 月 18 日	横浜小学校	○ 校長による学校経営方針について ○ 授業参観及び意見交換
10 月 17 日	坂中学校	○ 校長による学校経営方針について ○ 授業参観及び意見交換（小中連携教育研究会）
11 月 19 日	小屋浦小学校	○ 校長による学校経営方針について ○ 授業参観及び意見交換
1 月 21 日	坂小学校	○ 校長による学校経営方針について ○ 授業参観及び意見交換

(3) 教育委員の社会教育施設等訪問

視察日	視察場所	内 容
8 月 20 日	留守家庭児童会（ひまわり児童会）	○ 施設見学及び意見交換
10 月 22 日	ほほえみタウン坂（ぐるんぱさか）	○ 施設見学及び意見交換

(4) 教育委員の教育委員会主催事業への出席

実施月日	訪問先	内 容
6 月 12 日	Sunstar Hall	坂町 ICT 教育フォーラム（第 1 回）
8 月 29 日	Sunstar Hall	坂町 ICT 教育フォーラム（第 2 回） ※台風の影響で中止
11 月 3 日	町民センター	坂町文化祭
11 月 17 日	中国電力坂スポーツ施設他	第 33 回広島ベイマラソン大会
1 月 12 日	町民センター	令和 7 年 坂町成人式
1 月 30 日	シモハナ Hall	坂町 ICT 教育フォーラム（第 3 回）

令和6年度 点検評価票

中期経営目標	道徳心の高揚
短期経営目標	「礼節」を基本とした教育の推進

1 具体的なねらい

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、「考え、議論する道徳」の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。

2 取組・方策

(1) 「礼節」を基本とした教育を推進

教職員と児童生徒間及び児童生徒相互の信頼関係を構築し、発達段階を踏まえた丁寧な指導を、教育活動全体を通して粘り強く繰り返し実践する。

(2) 坂町道徳教育推進協議会の開催（3回／年）

本協議会で研究を深め、道徳的な課題を児童生徒一人一人が自分自身の問題と捉え、「考え、議論する道徳」への授業改善を図る。

学校・家庭・地域との連携・協力を大切にするとともに、「坂町礼節週間」「道徳参観日」を積極的に情報発信し、相互交流の場を設定する。また、ICTも効果的に活用し情報発信をする。

(3) 道徳教育推進教師を中心とした取組

道徳教育推進教師を中心とし、時と場に応じた挨拶や言葉遣いのできる「礼儀」、立場をわきまえ、よく考えて行動する「節度」を全ての教育活動で育成する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値 (目標値との比較、ポイント)	評価
○坂町学びのアンケート調査 (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容：20.21頁参照 1「礼節」2「道徳」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校：92.9% ・中学校：95.8%	○肯定的な回答の割合 ・小学校：87.3%(-5.6) ・中学校：94.1%(-1.7)	B

※評価方法…A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○アンケートの調査結果では、小・中学校とも、肯定的な回答の割合が目標値を下回る結果となったが、中学校においては、9割以上の肯定的な回答が近年維持されている。この結果から、中学校では礼節に関する意識が一定程度定着している一方で、小学校では更なる意識向上への取組が必要であることが示唆される。詳細なアンケート結果の内訳を見ると、例えば、挨拶・整理整頓・清掃の項目において、小学校と中学校の間に差が見られる。一方で、「いじめは、どんな理由があっても許されない」「人の気持ちが分かる人間になりたい」といった項目では、小・中学校ともに96%を超える高い肯定的な回答が得られており、道徳的価値の内面化が進んでいることがうかがえる。

○引き続き「坂町道徳教育推進協議会」を中心とした「坂町礼節週間」への取組や「考え、議論する道徳」の授業改善を積極的に推進するとともに、児童生徒が、学習したことの意義や価値を実感できるようにしていく。特に小学校においては、具体的な事例を用いた指導や、児童が主体的に考え、行動する機会を設けることで、礼節に関する意識の更なる向上を目指す。

○道徳参観日や道徳に係る公開授業については、全校にて実施することができた。引き続き、ICTを効果的に活用した授業改善を行い、学校通信等を用いて道徳教育の取組を保護者や地域にも発信していく。

令和6年度 点検評価票

中期経営目標	豊かな心の育成
短期経営目標	郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進

1 具体的なねらい

郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を育成する。また、異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献する態度を育む教育を推進する。

2 取組・方策

- (1) 「地域とともにある学校づくり」の推進
地域の人的・物的資源の活用、社会と共有・連携しながら、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進する。また、地域行事、文化等に興味をもち、それらを大切にする活動や、「マンガふるさとの偉人」等の活用を通して、郷土を愛する心の醸成を図る。
- (2) 坂町外国語教育研修の開催
教職員の英語力・実践的指導力の向上を図るとともに、経験の異なる教員が互いに学び合う授業実践研修を充実させる。(3回/年)
「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業の実施等、英語で外国人と交流する体験活動の機会を提供することにより、英語でのコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成を図るとともに、将来的に環境問題等に対して社会と連携・協働しながら取り組むといった未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成する。(2回/年)
- (3) 外国語推進リーダー・外国語活動講師の配置
外国人外国語活動講師や日本人外国語活動講師、小学校専科教諭(外国語推進リーダー)、充実したスタッフを配置し、連携を密にしながら子どもたちの英語による表現力の向上、英語を用いたコミュニケーション力を育む活動を充実させる。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査 (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容: 20.21頁参照 3「郷土愛・グローバル化」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 71.6% ・中学校: 67.3%	○肯定的な回答の割合 ・小: 67.6%(-4.0) ・中: 73.5%(+6.2)	A

※評価方法…A: 目標値と同等、B: -10ポイント未満、C: -10ポイント以下・-20ポイントを超える、D: -20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や総合的な学習の時間において、地域住民や保護者等が参画し、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。また、小学校においては、「マンガふるさとの偉人」を活用した授業を行うなど、郷土愛の醸成につなげることができた。
- 外国語推進リーダー等の専門的な知識・技能を有する講師を配置し、生きた英語を直接体験することができ、子どもたちの英語による表現力の向上や教職員の授業力の向上につながった。
- 中学校においては、「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業(県)にて海外校と連携し、外国語で表現することの楽しさや意味について考えることができた。令和7年度は、その学びを坂町外国語教育研修で広めるとともに、児童生徒が異なる文化や価値観を理解し、国際社会の一員として、国際社会の発展に貢献する人材を育成する。
- 課題として、将来、国際社会で活躍したいと考える児童生徒の割合が、他項目に比べて低いことが挙げられる。この要因の一つとして、設問内容が「海外において活躍する」ことのみを想起させる可能性があり、児童生徒が国際社会での活躍を限定的に捉えたと考えられる。
- 今後、ICTを効果的に活用した授業づくりを含め、ペアやグループで英語を使って伝え合う活動をより一層充実させるなどの授業の改善・工夫に努めるとともに、偉人マンガの活用等により、郷土愛の醸成及びグローバル化教育の推進を図る。また、児童生徒が将来の国際社会での活躍をより広く捉えられるよう、キャリア教育と連携し、多様な国際社会との関わり方について理解を深める必要がある。

令和 6 年度 点検評価票

中期経営目標	確かな学力の育成
短期経営目標	基礎的・基本的な知識・技能の定着

1 具体的なねらい

基礎・基本的な知識や技能の定着を図り、加えて学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力を育成する。

2 取組・方策

- (1) 坂町 ICT 教育フォーラムの開催（3 回／年）
町内全教職員で坂町教育の方針や方向性を共有し、外部の有識者等を招聘した専門性の高い研修を実施することで、各学校の課題解決や坂町教育の研究を深める。
- (2) 坂町小中連携研修の充実
個別最適な学びの推進に係る「坂町『学びの変革』チャレンジ加配（県）」や、「小学校低学年段階から始める学びの基盤づくり事業（県）」「坂町『学びの変革』推進協議会（県）」等、児童生徒一人一人に基礎的・基本的な内容の定着を図り、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。また、町内の保育園・認定こども園とも連携しながら教育内容の充実を図る。
- (3) 坂町標準学力調査の実施
町内の全児童生徒を対象に学力調査を実施し、その結果を分析するとともに一人一人の課題や取組方針等を明確にしながら、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行う。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①基礎学力の定着・向上 ○全国学力・学習状況調査 （全国平均値との比較） ・小学校：国語、算数 《調査対象：小 6》 ・中学校：国語、数学 《調査対象：中 3》	①全国平均値 （実施年度数値） ・小学校（国語、算数） ・中学校（国語、数学）	①全国学力・学習状況調査 （全国平均値との比較） ・小 6：国 (+3.3)、算 (+1.6) ・中 3：国 (+6.9)、数 (+16.5)	A
②主体的な学びの充実 ○坂町学びのアンケート調査 （過去 3 年間の平均値比較） ※アンケート内容：20・21 頁参照 4「授業（学び）」に関する質問	②肯定的な回答の割合 ・小学校：82.6% ・中学校：88.7%	②肯定的な回答の割合 ・小学校：78.6%(-4.0) ・中学校：87.4%(-1.3)	B
③ICT 教育の推進 ○坂町学びのアンケート調査 （過去 3 年間の平均値比較） ※アンケート内容：20・21 頁参照 7「情報教育（ICT）」に関する質問	③肯定的な回答の割合 ・小学校：87.1% ・中学校：90.6%	③肯定的な回答の割合 ・小学校：88.0%(+0.9) ・中学校：92.0%(+1.4)	A

※評価方法①…A：+5 ポイント以上、B：平均値以上、C：平均値未満、D：-5 ポイント以下

※評価方法②③…A：目標値と同等、B：-10 ポイント未満、C：-10 ポイント以下・-20 ポイントを超える、D：-20 ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 「全国学力・学習状況調査」では、全教科全国平均値を上回ることができた。坂町主催研修において、児童生徒一人一人の課題や取組方針等を分析し、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導について協議を行った成果である。
- 令和 6 年度では、小学校専科指導（算数、理科、英語、体育）や学校間連携（算数）、に係る加配を配置し、積極的な授業改善や課題等の明確化及び課題解決を図るとともに、取組の成果等を町内全校で共有し、個に応じたきめ細かな指導を充実させることができた。令和 7 年度も継続して加配の配置を行い、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。
- ICT を効果的に活用し基礎学力の定着・向上を図ることができたが、アンケート調査では、主体的な学びの充実に向けて課題が見られる。特に、小学校における「自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる」という回答が 70.3%と低い状況であり、中学校との差も大きい（中学校 82.1%）。また、学力に課題のある児童生徒への支援についても課題が見られた。今後は、特別支援教育の考え方も踏まえつつ、「個別最適な学び」を図る観点から、ICT の活用を含めた主体的な学びを推進するための手立てを、坂町小中連携研修に位置付け、基礎学力の定着・向上を目指す。

令和 6 年度 点検評価票

中期経営目標	健やかな体の育成
短期経営目標	体力・運動能力の向上

1 具体的なねらい

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 取組・方策

- (1) 学校教育活動全体での取組
体力づくりを体育・保健体育科の授業はもとより、総合的な学習の時間、特別活動、部活動、始業前、昼休み、放課後等の教育活動全体で取組の充実、運動の日常化を図る。
- (2) 坂町体力づくり研修の開催（3回／年）
小中学校合同の研修会において、各種データの分析や各校の取組等について情報交換し、体育主任の専門性や実践力の向上に努めるとともに、「小学校教科担任制推進加配（体育科）」を中心に体力向上及び体育科授業等の工夫・改善を図る。
- (3) 「体力づくり改善計画」の活用
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった課題解決を図るため、各校が「体力づくり改善計画」を作成し、発達の段階に応じた運動の実践を行う。
- (4) 「給食連絡会議」の機能化
栄養面や旬の食材、郷土料理など、給食の量や質、食の喜びも含めた給食の在り方について検討する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○新体力テスト (全国平均値比較) 【テスト種目】 ※対象:小5、中2	○小中学校…体力合計点 (令和6年度全国平均値比) ・小学校男子:52.53/80点 女子:53.92/80点 ・中学校男子:41.86/80点 女子:47.37/80点	○体力合計点 小学校男子:56.00(+3.47) 女子:59.04(+5.12) 中学校男子:46.81(+4.95) 女子:51.83(+4.46)	A

※評価方法 …A: +2ポイント以上、B: 目標値と同等、C: -2ポイント以下・-5ポイントを超える、D: -5ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 令和6年度は、小学校教科担任制推進加配（体育科：坂小に配置）を中心に、体力向上の取組を小中学校で共有し、運動機会の増加や体力・運動能力の向上を図ることができた。特に、新体力テストにおいては、小中学校ともに全国平均値を上回る成果をあげることができた（評価指標参照）。これは、「坂町体力づくり研修」を通して、全ての児童生徒が楽しく安心して運動に取り組むことができ、体力の向上につながる指導等について理解を深められたこと、「体力づくり改善計画」を活用し、各校が発達の段階に応じた運動の実践に取り組んだことなどが要因として考えられる。
- 今後も引き続き、小学校教科担任制推進加配の継続を検討するとともに、「体力づくり改善計画」を活用した授業づくりや運動の日常化、部活動（中学校）の充実を継続し、児童生徒の運動機会の増加や運動に対する意欲の向上につなげる必要がある。
- 1人1台端末の効果的な活用方法について研究することで、自己目標の設定や記録への挑戦などを視覚的に捉えることができるよう支援し、意欲のさらなる向上及び体力・運動能力の向上を図る。
- 食育・学校給食との関連を意識した取組・方策とするため、「給食連絡会議」において、栄養バランスの取れた食事や食の楽しみ方など、給食の在り方について更なる検討を重ね、各学校へ情報提供していく。

令和 6 年度 点検評価票

中期経営目標	生徒指導体制の確立
短期経営目標	積極的生徒指導の充実

1 具体的なねらい

一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。

2 取組・方策

(1) 坂町生徒指導連絡協議会の開催（7回／年）

各小中学校の生徒指導主事を対象に、理論研修、授業観察、実態交流等を行い、生徒指導方針（基準の明確化）の共通理解を図り、中1ギャップを解消する等、予防的積極的な取組を意識し、指導力の向上及び生徒指導体制の機能化を目指す。

(2) 「いじめアンケート」の実施（3回／年〔6・11・2月〕）

児童生徒及び保護者を対象にアンケートを実施するとともに、アンケート結果から全児童生徒の個別面談を丁寧に行い、いじめの早期発見、早期対応、真の解決に努める。

(3) 教育相談体制の確立

教職員に加えて、心理の専門家であるスクールカウンセラーや福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーをはじめ、地域、関係機関が互いに連携し、児童生徒の様々な情報の整理統合やアセスメント、支援計画等の作成を早期に行い、教職員が組織的に支援できる体制を確立する。

(4) 「子どもと向き合う時間」の確保

教員の長時間勤務課題の解決に向けて、児童生徒の出欠や成績の管理を行う校務支援システムの運用及び地域の協力を得て、健康でいきいきとやりがいをもって勤務できる環境を整備し、教員が「子どもと向き合う時間」を確保する。

※「子どもと向き合う時間」…授業・授業準備・教材研究・部活動・個別指導など児童生徒等の指導に関係ある業務に従事する時間

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①規範意識・自己肯定感の醸成 ○坂町学びのアンケート調査 （過去3年間の平均値比較） ※アンケート内容：20・21頁参照 5「学校生活」に関する質問	① 肯定的な回答の割合 ・小学校：90.1% ・中学校：93.8%	① 肯定的な回答の割合 ・小：89.8%(-0.3) ・中：91.6%(-2.2)	B

② 不登校の児童生徒数の割合 (令和5年度との全国平均値比較)	② 不登校の割合 (100人あたりの不登校児童生徒数) ・小学校：全国 2.14 人 ・中学校：全国 6.71 人	② 不登校の割合 (100人あたりの不登校児童生徒数) ・小：2.00 人(-0.14) ・中：8.67 人(+1.96) 【参考 不登校の割合】 (100人あたりの不登校児童生徒数) 令和5年度 令和6年度 小 1.30 人 2.00 人 中 12.5 人 8.67 人	C
③ 「子どもと向き合う時間」が確保されていると感じている教員（管理職を除く）の割合 ※アンケート① 「子どもと向き合う時間が確保できている」 アンケート② 「日々の業務の中で充実感を得られている」	③ 肯定的な回答の割合 ・アンケート①：85.0% ・アンケート②：92.0%	③ 肯定的な回答の割合 ・アンケート①：96.1% (+11.1) ・アンケート②：95.1% (+3.1)	A

※評価方法① … A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

※評価方法② … A:-1.5ポイント未満、B:-1.5ポイント以上0ポイント未満、C:0ポイント以上+2ポイント未満、D:+2ポイント以上

※評価方法③…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

- 年3回実施した「いじめアンケート」の結果から個別面談や聞き取り等を丁寧に行い、早期に発見し対応したことや「チーム学校」としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した教育相談体制を確立することができた。
- 規範意識や自己肯定感に関するアンケート結果では、肯定的な回答がわずかに下回ったものの高い数値を維持している。これらの結果は、継続して、「礼節」を基本とした教育を推進してきた成果であると言える。
- 令和6年度の不登校児童生徒数の割合は、令和5年度の全国平均値より、小学校で0.14ポイント下回ったものの、中学校において1.96ポイント上回った。しかし、中学校においては、令和5年度の不登校の割合（100人あたりの不登校児童生徒数）12.50人と比較して、3.83ポイント下回ることができた。不登校児童生徒の学びの場の確保に向け、適切なアセスメントを行い、小さなSOSに素早く支援するための方法を、坂町生徒指導連絡協議会等を通じて、共通認識を図った成果である。今後も不登校児童生徒の学びの場の確保に向け、ICTを活用した支援を充実させること及びチーム学校として、学級担任や養護教諭を中心に児童生徒の心身の状況、人間関係、身なり、言動等を丁寧に観察するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと積極的に連携し、支援を行う。さらに、不登校 SSR（スペシャルサポートルーム）推進校を中心とした、不登校の未然防止及び不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を行う。
- 「子どもと向き合う時間」が確保されていると感じている教員（管理職を除く）の割合については、アンケート①②ともに、目標値を大幅に上回ることができた。部活動指導員の配置や校務支援システムの導入、スクールサポートスタッフの全校配置等の成果である。

令和 6 年度 点検評価票

中期経営目標	安全教育の推進
短期経営目標	防災教育の充実

1 具体的なねらい

自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安心・安全な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養う。

2 取組・方策

(1) 生活科・総合的な学習の時間を中心とした教育活動の充実

平成 30 年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育を推進し、生涯にわたる防災対応能力の基礎を育成するとともに、復興に向けて心身ともにたくましく生き抜く力を育む防災教育を推進する。

また、町内施設の活用を図り、自他の命を大切にし、思いやる心を育むとともに、防災教育における「自助」の力と「共助」の精神を育み、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。

(2) 「ひろしまマイ・タイムライン」作成等の推進

「ひろしまマイ・タイムライン」の活用や坂町防災合言葉「待つな！迷うな！逃げろ！」の取組を通して、各家庭における避難行動について考えさせることで、風水害の前触れや被害について正しく理解させるとともに、防災意識を高める。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査 (過去 3 年間の平均値比較) ※アンケート内容：20・21 頁参照 6「防災教育」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校：86.8% ・中学校：93.8%	○肯定的な回答の割合 ・小学校：84.2% (-2.6) ・中学校：90.5% (-3.3)	B

※評価方法 …A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○各学校において、「ひろしまマイ・タイムライン」を活用し、各家庭における避難行動について考えることができた。また、地域の防災士をゲストティーチャーに招き、ハザードマップを作成したり、生徒集会で防災に係る発表をしたりするなど、地域の危険箇所について正しく理解するとともに、児童生徒が自分事として防災意識を高める取組も見られた。

○アンケート調査の結果から、災害が起きたときの避難場所の認知度、地域で起こりやすい災害の危険性の理解、危険予測に基づく安全確保・避難行動、他者や地域の安全への貢献意識、災害時のボランティア参加意欲について、小学校よりも中学校の方が高い傾向が見られた。特に、ボランティア参加意欲については、小学校 75.4%に対し中学校 87.4%と、10ポイント以上の差が見られた。この結果から、中学校においては、防災教育を通じて、より具体的な行動に移すための意識が高まっていると考えられる。

○小学校においては、坂町災害伝承ホールに出向き、災害での教訓を将来に伝承するための方法について、児童が考えをもつことができた。一方で、アンケート全体として、目標値には達しておらず、過去の災害を風化させないことや、防災意識の更なる向上が課題である。災害時の危険箇所及び避難場所等の理解については、児童生徒の肯定的回答 100%を目指したい。

○令和 7 年度も、引き続き、総合的な学習の時間を軸とした防災教育の取組を推進する。研究推進リーダー教員を中心とした防災教育における単元開発を活かし、「待つな！迷うな！逃げろ！」を合言葉とし、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。

坂 町 学 び の ア ン ケ ー ト 集 計 (小 学 校)

実施日： 令和 7 年 2 月

実施校： 坂小学校・横浜小学校・小屋浦小学校

実施人数： 118 人

1 「礼節」に関する質問		●肯定 85.1% ◆否定 14.9%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。				108	91.5 %	10	8.5 %
(2) 心のこもったあいさつをしている。				95	80.5 %	23	19.5 %
(3) 物を大切に、整理整頓することを心がけている。				96	81.4 %	22	18.6 %
(4) 学校への感謝の気持ちをもって、清掃することを心がけている。				96	81.4 %	22	18.6 %
(5) 相手に失礼のない言動を心がけている。				107	90.7 %	11	9.3 %

2 「道徳」に関する質問		●肯定 89.5% ◆否定 10.5%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 道徳の勉強は、ためになると思う。				101	85.6 %	17	14.4 %
(2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。				100	84.7 %	18	15.3 %
(3) いじめは、どんな理由があっても許されない。				114	96.6 %	4	3.4 %
(4) 人の気持ちがかかる人間になりたい。				115	97.5 %	3	2.5 %
(5) 道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。				98	83.1 %	20	16.9 %

3 「郷土愛・グローバル化」に関する質問		●肯定 67.6% ◆否定 32.4%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 自分の地域の行事に参加している。				85	72.0 %	33	28.0 %
(2) 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。				80	67.8 %	38	32.2 %
(3) 外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。				88	74.6 %	30	25.4 %
(4) 日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。				90	76.3 %	28	23.7 %
(5) 将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。				56	47.5 %	62	52.5 %

4 「授業（学び）」に関する質問		●肯定 78.6% ◆否定 21.4%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。				97	82.2 %	21	17.8 %
(2) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。				97	82.2 %	21	17.8 %
(3) 自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。				83	70.3 %	35	29.7 %
(4) 落ち着いて勉強することができている。				101	85.6 %	17	14.4 %
(5) 失敗しても学ぶことはおもしろい。				86	72.9 %	32	27.1 %

5 「学校生活」に関する質問		●肯定 89.8% ◆否定 10.2%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 学校での生活は楽しい。				102	86.4 %	16	13.6 %
(2) 今の学級の一員でよかった。				111	94.1 %	7	5.9 %
(3) 自分には、よいところがある。				96	81.4 %	22	18.6 %
(4) 学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。				111	94.1 %	7	5.9 %
(5) 人が困っているときは、進んで助けようとしている。				110	93.2 %	8	6.8 %

6 「防災教育」に関する質問		●肯定 84.2% ◆否定 15.8%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。				104	88.1 %	14	11.9 %
(2) 地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。				106	89.8 %	12	10.2 %
(3) 危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。				98	83.1 %	20	16.9 %
(4) 他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。				100	84.7 %	18	15.3 %
(5) 自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。				89	75.4 %	29	24.6 %

7 「情報教育（ICT）」に関する質問		●肯定 88.0% ◆否定 12.0%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。				80	67.8 %	38	32.2 %
(2) パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。				112	94.9 %	6	5.1 %
(3) 文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。				114	96.6 %	4	3.4 %
(4) 情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。				101	85.6 %	17	14.4 %
(5) ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることの意味や責任を理解している。				112	94.9 %	6	5.1 %

坂 町 学 び の ア ン ケ ー ト 集 計 (中 学 校)

実施日： 令和 7 年 2 月

実施校： 坂中学校

実施人数： 95 人

1 「礼節」に関する質問		●肯定 ◆否定	92.4% 7.6%	肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。				89	93.7 %	6	6.3 %
(2) 心のこもったあいさつをしている。				89	93.7 %	6	6.3 %
(3) 物を大切にし、整理整頓することを心がけている。				85	89.5 %	10	10.5 %
(4) 学校への感謝の気もちをもって、清掃することを心がけている。				83	87.4 %	12	12.6 %
(5) 相手に失礼のない言動を心がけている。				93	97.9 %	2	2.1 %
2 「道徳」に関する質問		●肯定 ◆否定	95.8% 4.2%	肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 道徳の勉強は、ためになると思う。				90	94.7 %	5	5.3 %
(2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。				92	96.8 %	3	3.2 %
(3) いじめは、どんな理由があっても許されない。				93	97.9 %	2	2.1 %
(4) 人の気もちが分かる人間になりたい。				94	98.9 %	1	1.1 %
(5) 道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。				86	90.5 %	9	9.5 %
3 「郷土愛・グローバル化」に関する質問		●肯定 ◆否定	73.5% 26.5%	肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 自分の地域の行事に参加している。				69	72.6 %	26	27.4 %
(2) 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。				71	74.7 %	24	25.3 %
(3) 外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。				75	78.9 %	20	21.1 %
(4) 日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。				76	80.0 %	19	20.0 %
(5) 将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。				58	61.1 %	37	38.9 %
4 「授業（学び）」に関する質問		●肯定 ◆否定	87.4% 12.6%	肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。				88	92.6 %	7	7.4 %
(2) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。				89	93.7 %	6	6.3 %
(3) 自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。				78	82.1 %	17	17.9 %
(4) 落ち着いて勉強することができている。				82	86.3 %	13	13.7 %
(5) 失敗しても学ぶことはおもしろい。				78	82.1 %	17	17.9 %
5 「学校生活」に関する質問		●肯定 ◆否定	91.6% 8.4%	肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 学校での生活は楽しい。				89	93.7 %	6	6.3 %
(2) 今の学級の一員でよかった。				87	91.6 %	8	8.4 %
(3) 自分には、よいところがある。				77	81.1 %	18	18.9 %
(4) 学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。				92	96.8 %	3	3.2 %
(5) 人が困っているときは、進んで助けようとしている。				90	94.7 %	5	5.3 %
6 「防災教育」に関する質問		●肯定 ◆否定	90.5% 9.5%	肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。				90	94.7 %	5	5.3 %
(2) 地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。				87	91.6 %	8	8.4 %
(3) 危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。				86	90.5 %	9	9.5 %
(4) 他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。				84	88.4 %	11	11.6 %
(5) 自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。				83	87.4 %	12	12.6 %
7 「情報教育（ICT）」に関する質問		●肯定 ◆否定	92.0% 8.0%	肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。				92	96.8 %	3	3.2 %
(2) パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。				85	89.5 %	10	10.5 %
(3) 文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。				89	93.7 %	6	6.3 %
(4) 情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。				78	82.1 %	17	17.9 %
(5) ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることの意味や責任を理解している。				93	97.9 %	2	2.1 %

令和 6 年度 点検評価票

中期経営目標	地域文化の保存、継承
短期経営目標	坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成

1 具体的なねらい

町民の郷土に対する歴史的理解を深めるとともに、後世へ文化を継承し、町民の文化意識の向上と町勢発展に努める。

2 取組・方策

- (1) 主催行事等の充実とアンケート調査
 主催行事等において、坂町の文化・歴史に対する関心が高まる内容を取り入れるとともに、事後アンケート調査を実施する。
 ○「坂町を知ろう」※雨天中止、「ようよう坂町ウォーキング」※通年開催、「坂町悠々健康ウォーキング」※3月23日開催、「坂町文化祭」※11月3日開催、「芸術文化啓発事業」※1月19日～2月28日開催
- (2) 文化財等の維持管理と活用
 文化財等を最善の状態の後世に残していくためにも、既存の展示室（町民センター内）及び文化財倉庫を利用し、文化財等の維持管理に取り組む。それに伴い、上記施設の環境整備を年間通じて実施するとともに、新たに整備を行うふるさと資料館の活用も見据えて、多くの文化財等を町民に公開できるよう、文化財倉庫に保管している文化財等の把握と整理を引き続き行う。
- (3) 史跡案内看板の利用
 前年度に引き続き、各種イベントやウォーキング等で活用し、周知を図った。また、看板を読み、歴史的理解等を深めてもらうためにも、全ての看板までの道筋が分かる動画を作成し、町民等に向けて公開できるようにする。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①関心・意欲に関するアンケート調査 (過去3年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・89%	① 肯定的な回答の割合 ・95%(+6)	A
②行事に対する満足度調査 (過去3年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・89%	② 肯定的な回答の割合 ・95%(+6)	A

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイントを超える、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 実施したイベントの満足度調査及び関心・意欲に関する調査において、高い肯定的な意見が得られ、町の開催するイベントへの期待の高さを再認識した。今後も、イベント参加者からの要望等に関する意見も検証分析するなど、企画の更なる充実を図っていく。
- 「ようよう坂町ウォーキング」のコースに坂町史に記載がある史跡等を取り入れ、説明を行ったことで、町史への関心を高めることができた。
- 史跡案内看板の動画を坂町文化祭で紹介し、好評を得た。しかし、この動画はホームページ等での公開に至っておらず限定的公開にとどまっている。作成した動画を町ホームページや公式SNS等で公開し、より多くの町民が手軽に視聴できるようにする。また、各案内看板にQRコードを設置し、スマートフォン等で直接動画にアクセスできる仕組みや、各案内看板の場所や詳細情報を記載したデジタルマップを作成など、スマートフォン等を活用した閲覧についても検討する。
- 「広報さか」やホームページ、公式LINEやdボタンといった多様な広報手段を活用し、事業の周知を図ることができた。一方で、広報はイベント告知が中心となっており、多角的な情報発信が不足している。
- 令和7年度中に整備するふるさと資料館での展示を見据え、文化財倉庫で保管している文化財の把握と体系的な整理を引き続き行っていく。また、ウェブサイトやパンフレット等を作成し、これらの情報を発信する。

令和6年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習環境・生涯学習推進体制の充実
短期経営目標	図書館サービスの向上

1 具体的なねらい

町民に必要とされる図書館を目指し、ニーズと時代の変化に対応しながら、町民の自主的な学習・文化・余暇活動を支援する。

2 取組・方策

(1) イベント等啓発事業の充実

町立図書館において「図書館こどもまつり」を開催し、ボランティアによる読み聞かせ、職場（図書サービス）体験、POP づくり、図書館のお仕事体験を行うことにより、子どもと大人が読書の楽しさを知るきっかけをつくり、読書体験を深めるような機会を提供する。また、補助金等の活用により、活動の更なる充実を検討する。

(2) 情報発信の充実

税務住民課へ協力依頼し、図書館の案内パンフレットを転入者等へ随時配布する。年代に応じた「図書館だより」を作成し、定期的に配布する。また、様々な世代に幅広い情報を提供するため、SNS 等を効果的に活用した情報を発信するとともに、社会状況に応じた新たな取組の創出及び工夫・改善に努める。中でも、時間を問わず貸出予約ができ、希望の施設での受け取りが可能なインターネット予約サービスをより一層周知し、様々な図書館の利用方法があることを広める。

(3) 関係機関との連携・協働

保険健康課主管である乳児健診等を実施する際には、健診施設に移動図書館を設置するサービスを実施する等、関係機関と連携し読書活動を推進する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①図書等貸出冊数	①48,698 冊	①45,508 冊 (-6.5)	B
②年間一人当たりの貸出冊数	②3.88 冊/年	②3.63 冊/年 (-6.5)	B
③インターネット予約利用者数	③965 人/年	③948 人/年 (-2.0)	B

※評価方法①②③…A:目標値以上、B:-10ポイントを超える、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

※①②:「日本図書館協会調査（全国市町村）」の前年度数値比較

※③インターネット予約利用者数については、は前年度実績より 10%高い目標値を設定。

4 成果と課題・改善策

（１）図書館サービス全体

- 図書館貸出冊数は減少したものの、来館者数は増加しており、個別スペースの設置が来館者増加に寄与したと考えられる。図書館貸出冊数の減少については、利用者の利用動機や行動を把握するためのアンケート等を実施し、年代別のニーズに合わせた資料の収集・提供を行う等のサービス改善に繋げる。特に、若者層の電子書籍利用等の傾向を分析し、電子書籍サービス導入や電子書籍と連携したイベント等を検討する。
- インターネット予約利用者数は増加しており、利便性が向上している。
- 広報誌、図書館だより、公式 LINE 等、多様な媒体を活用した情報発信を継続している。
- 転入者等へのパンフレット配布による新規利用者増加策は、直近 5 年間の平均カード発行者数と同数で横ばいという結果であった。転入・出生時のパンフレット配布に加え、地域イベント等での PR 活動、新規利用者を対象としたキャンペーン等を実施し、利用を促進する。
- 一部の利用者へのサービス周知不足が見受けられたが、図書館内での案内表示を充実させるとともに、職員による丁寧な説明を心がける。また、広報誌、公式 LINE 等を活用し、図書館の各種サービス内容について、積極的な周知を行う。

（２）イベント等啓発事業

- 「図書館こどもまつり」は、参加者が増加し、盛況であった。これは、参加者と坂町のキャラクターとの記念撮影などのイベントを盛り上げる工夫や、お盆の時期の開催により、里帰り客の参加もあったことによる。
- 一部の講座（読み聞かせ講座、折り紙体験等）への参加者増加が望まれる。参加者のニーズをもとに講座の内容や開催日時、参加しやすい環境づくり（託児サービス等）を検討・実施する。また、広報媒体を効果的に活用し、講座の魅力を発信する。
- 令和 6 年度は図書館利用促進につながる講座の実施が不十分であったが、次年度は、外部講師の招へいや読み聞かせボランティア講座等の開催に向け、計画的に準備を進める。

（３）関係機関との連携・協働

- 乳児健診時に移動図書館を設置する「はじめて絵本事業」は、新規の図書カード作成や貸し出しに繋がり、読書活動の推進に貢献した。
- 月に 1 回の小中学校への司書による巡回訪問により、学校と連携した読書活動を推進している。次年度は、より充実した活動のために、学校司書と連携した合同研修会等を実施し、情報交換や連携体制の構築を図るとともに、具体的な読書推進策を協議・実行する。

令和6年度 点検評価票

中期経営目標	生涯スポーツの推進
短期経営目標	生涯スポーツ社会の実現

1 具体的なねらい

町民誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指す。

2 取組・方策

(1) 各種教室の充実とアンケート調査 各種教室でスポーツへの関心・意欲、健康増進への意識が高まるよう、事後アンケート調査を実施し、内容を工夫・改善する。 ○親子ふれあい体操教室（参加：30組）※10/21～12/16の間で8回実施 ○親子ふれあい水泳教室（参加：6組）※7/5.9.12.19 5回中4回実施 ○小学生水泳教室（1年：25人、2・3年生：31人）※6/4～7/5の間で18回中17回実施 (2) 各種教室・大会等の情報発信 町広報誌やホームページ、公式LINE等の活用を図り、町内外へ積極的に発信する。 ○幼児・小学生を対象とした各種教室 ○町内体育大会、広島ベイマラソン大会等 (3) 軽スポーツの普及 スポーツ推進委員での研修を重ね、強い力を必要とせず、誰でも楽しむことが出来る、カラーリング等の協力要請を行い、軽スポーツの普及活動に努める。 ○モルック ○カラーリング大会 ○ボッチャ (4) 障害を持つ方を対象としたダンスの取り組みへの参加など、スポーツ推進委員と民生課と県の担当部署と連携し、問題点などを詰めていく。 ○障害を持つ方を対象とした着衣泳教室
--

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
① 各種事業のアンケート調査 (過去3年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・95%	①肯定的な回答の割合 ・98.5%(+3.5)	A
② 各種大会の満足度調査 (過去3年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・95%	②肯定的な回答の割合 ・100%(+5)	A

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイントを超える、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○「親子ふれあい体操教室」、「親子ふれあい水泳教室」、「小学生水泳教室」を開催し、参加者から肯定的な評価を得た。具体的には、子どもが身体を動かすことを好きになった、親子でスキンシップを取りながら運動を楽しめた、家庭でも運動を取り入れたい、また参加したいという声があった。 ○各種教室や町主催の事業を通じて、幼児から高齢者まで、町民が生涯にわたりスポーツを楽しみ、それが生きがいの一部となることへの貢献を目指している。 ○「広報さか」やチラシ、ホームページ、公式LINE等を活用し、町民への情報発信とスポーツ活動への参加促進に努めた。 ○スポーツ推進委員による軽スポーツ（モルック、カラーリング大会、ボッチャ）の普及に努めた。軽スポーツの普及において、次年度の大会の開催での他種目の導入可能性を含めた検討が必要である。 ○障害者スポーツの研修会（着衣泳教室）を通じて、様々な課題が得られた。職員とスポーツ推進委員が連携し、障害者一人ひとりに寄り添った支援を行うために、民生課や県担当部署との連携を強化する。具体的な研修計画や支援体制について協議する。

令和6年度 点検評価票

中期経営目標	ウォーキングの推進
短期経営目標	「坂町悠々健康ウォーキング大会」の充実

1 具体的なねらい

ウォーキングを通じて健康でたくましい「こころ」と「からだ」をつくり、悠々とした心豊かな生活や郷土愛の醸成・地域の活性化を目指す。

2 取組・方策

- (1) 「坂町悠々健康ウォーキング大会」の情報発信
坂町広報誌やホームページ等への掲載及び関係機関等との連携を図り、坂町公式 LINE や d ボタン広報誌を利用して町内外へ積極的に情報発信する。また、小中学校や住民協へ依頼し、大会案内を各世帯へ配布する。
- (2) 大会運営の工夫・改善
○新型コロナウイルス感染拡大防止について実行委員会・関係団体、他課等と協議を行う。
○前回大会の反省点を改善し、他市町の大会を参考に、内容の更なる充実に努める。
○アンケートの回収率を高めるため、ゴール地点付近で実施する。
○健康チェック等の感染防止対策を行い、安心して参加できるように工夫する。
- (3) 活気とにぎわいの取組
これまで行っていた各種測定及びカキ雑炊の給食は食生活改善推進協議会及び女性会の協力を得て、新型コロナウイルス感染拡大前と同様に実施する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値（令和元年度）	実績値	評価
①「坂町悠々健康ウォーキング大会」参加人数	① 1,200 人	① 732 人 (-39.0)	D
②満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	② 85%	② 95.2% (+10.2)	A

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイントを超える、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 天候に恵まれたこともあり、参加者数は732人となり、多くの参加者を得ることができた（当日受付83人を含む）。一方で、参加者数の目標値1,200人については大きく下回る結果となり、目標達成には至らなかったが、前年度よりも149人増えていることから、少しずつではあるがコロナ前に戻って来ていると感じられるので、次年度の開催に向けてより早期に開催を周知するなど、広報活動を強化し、更なる参加者増を目指す。特に、インターネット申し込みの利用状況を分析し、オンラインでの広報戦略も検討する。
- イベント終了時のアンケートでは、「毎年楽しみにしてます」、「看板や役員さんが立って下さり、迷うことなく歩いていけました」等の意見があり、参加者の満足度が高いことがうかがえた。
- 初めてネットによる申し込みを導入した結果、申込者数の約11%にあたる82名が利用し、新たな申込手段としての有効性が確認できた。
- 大会開催に関する周知を前回より早期に行ったことで、申込者数の増加につながった（前回674人→今回732人）。
- アンケートにおいて、「水尻の横断歩道橋の階段はきつい」、「出発まで待ち時間が長すぎる」など、大会運営に関する具体的な意見が寄せられた。参加者からの意見を踏まえ、コース設定や受付・出発時の運営方法について改善策を検討する。例えば、コースについては、階段以外のルートを検討したり、休憩ポイントを増やしたりするなどの工夫を行う。受付・出発時の待ち時間については、受付方法の見直しなどを検討する。

令和 6 年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習施設の有効活用
短期経営目標	町民交流センターの活用促進

1 具体的なねらい

町民に親しまれ、スポーツ・文化活動の交流拠点として広く活用されるよう、関係機関と連携・協力し、利用促進に努める。

2 取組・方策

(1) 各種（主催）イベントの開催

目的を明確にし、町民の元気と意欲を高め、豊かな生活を送ることができる各種イベントを開催する。

○坂町平和音楽祭 7月27日（土） ※来場者 460名

○能登半島地震復興チャリティー神楽 8月25日（日） ※来場者 600名

○第15回吹奏楽フェスティバル 9月1日（日） ※来場者延べ500名

○共演 神楽の舞 12月15日（日） ※来場者 535名

○坂町立町民交流センター開館10周年記念 DRUM TAO ※来場者 712名

○その他【ピアノ試弾会（年3回、6月・10月・2月に実施）】

※年間利用人数 189人（内試弾会利用件数 74人）

(2) 積極的な情報発信

ホームページや坂広報誌等への掲載や関係機関等と連携し、町内外への情報発信に努め、利用が見込まれる企業、学校関係のリストアップ行い、チラシやDMを配布するなどの利用促進を図った。また、Facebook、Instagram、坂町公式LINE、dボタン広報誌など、継続して発信できるソーシャルメディアを活用し、更なる利用促進に努めた。

(3) 地域に密着・開かれたホール運営

誰もが気軽に利用できる施設運営に努め、来館者へのアンケート調査を実施し、意見を反映させた。※交流スペースの開放、明るいロビー、音楽やDVDの常時放送などの工夫をした。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
① 施設利用人数（過去3年間の平均値比較）	①58,019人	①76,734人（+32.3）	A
② Facebook アクセス数（過去3年間の平均値比較）	—	—	—
③ Instagram フォロワー数（令和6年度～）	③181件	③282件（+55.8）	A
④ 満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	④86.2%	④92.3%（+6.1）	A

※評価方法①～④…A: 目標値以上、B: -10ポイントを超える、C: -10ポイント以下・-20ポイント以上、D: -20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 施設利用人数は、町民交流センター10周年記念事業の実施や中学校の体育館改修工事に伴う部活動での利用増により、目標値を32.3ポイント上回る76,734人を記録した。
- 地域に密着したホール運営として、10周年記念公演「DRUM TAO」や坂町平和音楽祭、神楽公演など多彩な事業を開催し、アンケート回答者の92.3%から満足という評価を得た。今後も多くの方に来場いただき、満足度を維持・向上させるために、来場者アンケートによってニーズを把握し、満足度の高い企画を実施・検証を行う。
- 若者世代の利用促進に繋がるよう、若者世代や親子を対象とした事業の企画・開催を検討する。具体的には、若者に人気のアーティストを招いたイベントや、親子で参加できるワークショップなどを実施し利用促進を図る。
- 令和6年9月の町民交流センター愛称変更を区切りにFacebookを廃止し、Instagramに注力した結果、フォロワー数は目標値55.8ポイントを上回り情報発信の効果が見られた。今後も、イベントの最新情報や参加者からの感想などをタイムリーに配信し、開催時期や魅力をより深く伝える特集記事を掲載するなど、媒体ごとの強みを活かした情報発信に努める。